許南麒編訳

南からの頌歌

——未來社

南からの頌歌

許南麒編訳

未來社

南からの頌歌

一九八六年九月九日　第一刷発行

定価　二〇〇〇円

編訳者　許南麒

発行者　西谷能雄

発行所　株式会社　未來社

東京都文京区小石川三―七―二

電話（〇三）八一四―五五二一

振替・東京七―八七三八五番

本文印刷＝モリモト印刷

装　本＝形成社印刷

製　本＝今泉誠文社

乱丁・落丁本はおとりかえします。

南からの頌歌　目次

1

聖なる生誕

雪……金哲喚…九
二月のその日……金哲喚…一三
慶賀のうた……金哲喚…一四
揺り籠……金哲喚…一六
女史が歩かれた険しい道……沈海珍…二〇
革命の母金正淑（キムジョンスク）女史……沈海珍…二三
未来の誕生……沈海珍…二三
聖なる生誕……李鎮卿…二六

2

忠誠のうた

忠誠……崔秀日…四三
領袖の指さすところ　いずこへなりとも……崔秀日…四五
まばゆい朝焼け……崔秀日…四八

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

千里の道を歩かれる気持で……金孝誠…　五一
祝願（ねがい）……金孝誠…　五八
姿勢……李相現…　六六
青山里（チョンサンリ）の夜明け……李相現…　六八
真直（まっす）ぐな道……凡　植…　七二
農民の言葉……凡　植…　七四

3

旗幟（きし）

宿営地の静けさ……朴春民…　八五
宣言……朴春民…　八九
旗のうた……朴春民…　九一
チュチェの長江……朴錦山…　九五
金日成主義の旗　高く掲げて……朴錦山…　九九

4

響導（みちびき）の旗手

碧(あお)い気性……盧承一…一〇六
一つの思想……盧承一…一〇八
金山浦(クムサンポ)の新しいうた……盧承一…二〇
乙女の答え……李相準…二四
現地指導の途で……李相準…二八

5

一つの朝鮮

いつも南の人たちと一緒に……申求亨…二三
永い年月、荒荒しい風にも……申求亨…二六
一つの朝鮮……高福守…二三
夜明け……高福守…二四

6

チュチェ芸術を花咲かせたその指導

その方の英知……金天逸…二六

うた……金天逸…一四一
光り輝く塔……金天逸…一四五
芸術の国……安　徹…一四八
民族の誇り……安　徹…一五一

7 愛の日差し

釣瓶に秘めたはなし……金瑞成…一五六
緑したたる土手道で……鄭万範…一六〇
天地の間に一ぱいの愛……鄭万範…一六六

8 太陽の祖国

太陽の祖国に住む誇り……任鳳浩…一七七
白髪の青春のうた……金光雨…一八四
千度倒れれば千度また起ちあがり……閔昌奎…一九〇
獄中から……沈　耕…一九四

9

南からの願い

われわれの誓い……田麒栄…二〇一
統一広場……沈海珍…二〇四
南からの願い……廉日雨…二〇九
願ってやまないその日が来れば……咸泰完…二一四

あとがき……許南麒…二三三

南からの頌歌

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.co

1　聖なる生誕

雪

金哲喚（キム チョル ファン）

雪は
静かにつもる
白い花びら、
待ちに待った
その日の喜び、
雪は

山や河を暖かく包む
愛の手、
この地の明るい夢を育てる
声のない子守唄
不滅の足跡、

こころして行きなされ、
綺麗に　ひろげられた
母の　まごころの上を ――、

ああ　雪は
親愛なるその方(かた)の
清らかな誕生を忘れ得ずに

この地に降りる祝福！

深く、深く染(し)みわたり
胸にまで届いて
仰いでも限りない
万民の欽慕(きんぼ)、

遙かなる空一ぱいに
不滅の歴史を色彩(いろど)って降りる
永遠のしあわせ、限りないよろこび、
遠く、遠くひろまって行く
この地の頌歌！

二月のその日

金哲喚

すべてのものが厳粛な静寂の中で待っていた、
密林(もり)も　風の音を鎮(しず)めた、
山は　姿勢をただして　列をととのえ
渓谷は　深い神秘の中に明け染めた、

河(かわ)の水はふくれあがって氷の塊(かたまり)を押し流しながら
悠然と海にむかって流れて行った、
大地は徐徐に冬の季節を脱いで
静かに種(たね)の蒔かれるのを待っていた、

季節を勘違いした季節鳥が列をなしてやって来て、
人びとが目を輝かせて日向(ひなた)を求めて出向く頃
祖国は　しあわせな予感を抱いて
春雪の木霊(こだま)のように谷底に勇気を与えて行った、

暗闇はすでにひびがいっていた、
光明の翼はすでに三千里*を覆(おお)っていた、
敵は　ありったけの嘘をもって虚勢を張りながら
恐怖に歪(つら)んだ面(ベクトウ)で白頭をにらんでいた、

ああ、
美しい朝焼けが　赤く赤く
祖国の空を染めていた、

大きな鷲が一羽、空高く舞いあがり
親愛なるその方　金正日同志の生誕を告げ
朝焼けの空を目指して飛んで行った。

＊　朝鮮のこと。

慶賀のうた

金　哲　喚

おそらく低い窓辺に流れる
暖かな灯の光りだけではなかった、
深い眠りにさそわれる密林の闇の中に
はっきりと瑞気漂う一軒の丸太小屋、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com